

「シン・エヴァ」に街並み登場、「聖地巡礼」宇部にファン続々

大ヒットしたアニメ映画「シン・エヴァンゲリオン劇場版」の“聖地巡礼現象”が、山口県宇部市で話題になっている。同市は総監督・庵野秀明さんの出身地で、作品には象徴的な場面でJR宇部新川駅など市内の街並みが登場する。3月の映画公開からファンらが相次いでおり、「物語の余韻に浸ることができるまち」として、人々を魅了している面があるようだ。

テレビアニメ版から約25年にわたるシリーズの完結編で、興行収入は100億円を超えた。JR西日本山口支社によると、公開直後から宇部新川駅の入場券の販売が急増した。

9月に駅を訪れたが、家族連れやカップルらが写真撮影する姿があり、作中で主人公が座った駅のベンチに座る人も多い。シリーズで登場した地元ラーメン店「中華そば 一久」で食事を堪能したり、商店街「銀天街」のシャッターに描かれたエヴァを題材にした絵を見たりする人もいる。

シリーズには鉄塔や電信柱、工場、線路など人工物が多く描かれ、工業都市として発展した宇部市で育った庵野監督の原風景のようなものを感じ取れる。市内を巡ると「物語の余韻」があちこちに残ると感じる。

地域でも一層の盛り上げを後押し。映画製作に協力した宇部フィルムコミッションは公開記念パネル展を実施。市内唯一の映画館「シネマ・スクエア7」では、全国的な上映が7月に終了した後も9月まで続映。西本佳弘支配人は「作品には宇部の風景とエヴァの世界がシンクロする面があり、宇部にいくと物語の中に入り込む感覚になる。作品には庵野監督の地元愛を感じており、エヴァは大切な地域資源」と話す。

コロナ禍で観光需要が減少する中、宇部市はエヴァを生かしたまちづくりに取り組みたいとし、今後、感染状況をみながら、JR西と連携して宇部新川駅や宇部線の利用促進の企画を検討中という。作品が生んでくれたファンらと地域の絆を、コロナ後にどう生かしていけるか。注目したい。（蛇足ながら白状すると、筆者もファンの一人）

山口新聞社 周南支社長 土屋裕樹



宇部市中心部の商店街「銀天街」のシャッターに描かれたエヴァの登場人物の絵



宇部新川駅。「聖地巡礼」で記念撮影する人が多くいる